

Title	商品ポートフォリオにみる市場シェアの拡大と研究開発への提案
Sub Title	
Author	前原賢一(Maehara, Kenichi) 奥村昭博
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第878号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0878

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	前原 賢一 (エーザイ株式会社)	主査 奥村 昭博 副査 嶋口 充輝 矢作 恒雄
所属	奥村 昭博 研究室	

商品ポートフォリオにみる市場シェアの拡大と研究開発への提案

産業の成熟化が進行しており、プロダクト・イノベーションを如何に達成し成長を持続させていくかが、企業の経営課題の一つになってきた感が強い。さらに、消費者ニーズの多様化と共に、商品ライフサイクルも短くなり、商品開発のリスクが増大するなか、市場シェア争いは一層厳しさを増している。この様な環境に於いて、市場シェアを着実に伸ばす企業の秘訣は何か。商品ポートフォリオをどの様に組んで来た企業が、市場シェアを高めてきたか興味を覚えるに至った。特に、商品の品質の差が、市場シェアを高めるのにどれだけの相違を有するのだろうか。また、この分析結果は市場シェアを高める為の、効果的な商品開発の方向性を決定づける一つのツールになる筈である。

製薬業は新疾病に対し要望される薬剤が後を絶たず、決して全ての領域が成熟しているわけではないが、国内市場に於いては多くの疾病領域で低成長期に直面していると言える。本研究ではその製薬企業を取り上げ、一方の軸に必ず商品の軸をとった、独自の九つのセルを持ったマトリックスによる、六つの商品ポートフォリオを作成し、これと各企業毎の売上高成長率との相関を調べた。

発見した事は、画期的な商品のマイナーチェンジした、いわゆる二番手三番手商品でも、先発商品と等しく売上高成長率に強い影響を与え得ると言うことである。これはリスクや開発コストの小さい二番手三番手商品の開発意義が高い事を示唆している。また、必ずしも新製品の売上高成長率への影響は大きくなく、五年以上経過した商品の売上高を更に高めながら、ライフサイクルを延長させる戦略をとってきた企業が、市場シェアを拡大してきた事が分かった。これは新製品の開発と同様に、上市後の商品の可能性を追求する研究も重要である事を示唆している。更に市場セグメント別に分析すると、そのセグメントでの競争地位の高い企業の高品質戦略、低い企業の商品差別化戦略が売上高成長率の拡大に有効であることが分かった。これは、セグメント別競争地位を認識して研究開発に於ける品質レベルを検討する必要性を示唆している。